

●特集②・③
**ホットなニュースを冷めないうちに
 情報発信の新たな取り組み**

- 4-8 タウントピックス
- 9 健康生活していますか?
- 10 みんなで5・7・5
- 11 市長日記・省エネ長者作戦
- 12-13 まちネタ写真館
- 14 びょういんだより
- 15 教育委員会 information
- 16-17 国保年金あらかると
- 18-21 情報おしらせ版
- 22 そうだ図書館に行こう♪
- 23 窓口・納税
- 24 歴史散歩



防災の決意新たに 出初式

新春恒例の市消防合同出初式が、1月6日、消防団ら492人、車両26台が出動し、高島市民会館で行われました。式典では、表彰状や感謝状の授与の後、受賞者を代表して安曇川第2分団勝山智士分団長が謝辞を述べられました。受賞された皆さんの長年のご尽力に感謝しますとともに、ますますのご活躍をお祈りします。また、式典終了後には、消防車両の分列行進を行い、今津浜で一斉放水訓練が行われました。快晴に恵まれたこの日、放水と同時に虹が現れ、見物に訪れた人々から、歓声が沸き上がっていました。(消防総務課)

歴史散歩

No.38

スキー場の成立

現在、市内には国境、マキノ、箱館山、朽木という4つのスキー場があります。日本でスキーが盛んになったのは大正時代のことです。市内でもそのころからスキーを愛好する人々があらわれ、丘陵地や山の平坦部などをスキー場として活用するようになりまし。大正13年12月26日付けの朝日新聞には「饗庭野と上原は絶好のスキー場」という記事があり、これは今津町大供東合の丘陵地(現在の陸上自衛隊今津駐屯地第1営舎付近)にあった饗庭野スキー場と、現在もマキノスキー場として営業を続ける牧野スキー場を指していると考えられます。

この2つのスキー場を大いに活用し、市内一円へスキーを広めたのは、旧制今津中学校(現在の高島高等学校)でした。今津中学校では、スキー講習を行ったことのある京都の中学校の教諭を指導者として招き、冬期体操の一部としてスキーを授業に取り入れたほか、「饗庭野スキークラブ」を発足させ、教諭らが顧問となって、この地域に適したより良い滑り方の研究などを行いました。また、大正14年2月8日には、牧野スキー場で、大阪朝日新聞社の後援によるスキー競技会が開催され、多くの今津中学校生徒と地元の小中学生が参加しました。



▶ 饗庭野スキー場

さらに増加しました。昭和7年に朽木荒川のホトラ山を利用して開設された朽木スキー場へは、江若鉄道安曇駅からバスで下荒川に向かうというルートで、京都・大津方面から多くのスキーヤーがやってきたと言われてい(文化財課)

に到着するスキーヤーのために、浜通りの数軒の旅館が対応しました。また海津港では、スキー船の中で夜明けを待つたくさん乗客の姿がよく見られたと言います。昭和6年1月に江若鉄道の全線が開通すると、高島市へのスキー客は



早くも春の便りが届きました。(今津町弘川で)

▼例年より2週間以上も早く、座禅草開花の知らせが届きました。このところ新聞などで「例年より早く」の言葉を冠する記事をよく目にします。植物などは、小さな環境の変化にも敏感に反応しているんですね。しかし、私たちはどうでしょう。住環境の発達により生活が快適になればなるほどその変化に鈍感になっていきます。温暖化が声高く叫ばれるようになった今、改めて自分たちを取り巻く環境を検証したら、驚く結果が出るのではないのでしょうか。春の便りは、目には見えない地球からのメッセージを形にしているのかもしれない。星の王子様にでてきたキツネはこう言いました。「心で見なくちゃ物事は見えない。大切なものは目に見えないんだ」。早すぎる春の便りは、それをキツネに代わって教えてくれているのかもしれない。(広報担当)

編集後記